

# 平成28年度 一般採用試験前期

## 地理歴史（世界史）試験問題（12頁中の1）

### （人文・社会科学専攻）

（注意） 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入すること。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

- 1 以下の問題文(01)～(03)を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

(01)

[ア]玄宗は、名臣を登用し、政治の引き締めにつとめて唐の支配を再建した。しかし、唐の律令体制は、玄宗の治世までにはころび始めていた。[イ]安史の乱は、その律令体制に決定的な打撃を与えた。

兵制では、府兵制が玄宗の治世期には解体していた。税制では、安史の乱後に種々の性格の税目が併存し、人民の負担が増すとともに官吏の不正を生む原因となった。そこで、[ウ]徳宗の治世期の780年に兩税法が施行された。兩税法は諸税を統一して一本化するとともに、貨幣で税額を表示して計算を容易にし、予算を立てて各州に割り当てるなど、数々の特色をもっていた。兩税法の名称は、麦田については6月納期の夏税、粟田・稻田については11月納期の秋税を課したことによる。[エ]この兩税法の導入は、均田制の原則の廃棄を容認するものであった。

官制については、唐代の後半に律令の官品令や職員令にない官職が多数登場した。また安史の乱後には、中央と地方の関係も大きく変化した。この乱の最中から、唐朝は投降した反乱軍の武将などを [a] として内地に駐屯させ、彼らの懷柔と地方の維持とをはかった。唐代には複数の州の警察を職務とする觀察使があったが、安史の乱後には多くの [a] が觀察使を兼任した。こうして [a] は、数州におよぶ行政権と軍事権とを同時に保持する地方勢力に成長していった。そうして形成された地方勢力を [b] という。9世紀中頃には、全国が40～50の [b] に管理される体制が生じた。[b] は職業兵士の親衛部隊をもち、唐朝の指揮に従わない傾向も生じた。

安史の乱後には茶にも課税され、塩税とともに重要な財源となった。これに対し、官憲の目を盗んで塩や茶を密売する者があらわれ、長江中下流域で活動するようになった。875年頃に塩の密売商人の王仙芝が反乱を起こすと、黄巢が呼応してたちまち大反乱となった。反乱軍ははじめ山東・河南・安徽などの方面を略奪して回り、その後分裂したが、878年に王仙芝が唐朝に殺害されると再び合流した。879年には南下して広州に至り、[オ]回教徒や[カ]景教徒などの異教徒12万人を殺害した。そのため、[キ]広州の海外貿易は数十年間停頓したという。その後、反乱軍は北上し、880年に洛陽や長安を占領した。だが、反乱軍は略奪するのみで占領地政策をもたず、また食糧不足が発生したため、長安の人心は離れていった。やがて突厥出身の李克用に追いつめられて黄巢は自殺し、884年に反乱は終わった。

黄巢の乱以後、各地の [b] 勢力が軍閥化して相争うようになり、唐朝の権威は地に墜ちた。901年頃には、[ク]大運河の黄河側の接点である汴州を拠点とした[ケ]趙匡胤がもっとも強大であった。彼は、907年に唐の皇帝に譲位を強要して後梁を建てた。こうして約300年続いた唐朝は幕を閉じた。

安史の乱後における唐の周辺地域の情勢に言及しておこう。安史の乱後には、唐の要請でこの反乱の鎮圧を援助した[コ]契丹が台頭し、特産の馬と唐の絹との交換(絹馬交易)を強要して唐を苦しめたが、9世紀中頃に滅亡した。[サ]吐蕃と唐の間には9世紀前半に和平が成立した。雲南では[シ]南越が8世紀に台頭し、9世紀に最盛期をむかえたが、10世紀初期に滅亡した。

設問1 下線部[ア]について、玄宗の治世の前半期を称賛するためにつくられた言葉を答えなさい。

設問2 下線部[イ]について、この反乱の中心的人物のひとりである安禄山はどのような民族出身の武将であったか。以下のA~Dのなかから選択しなさい。

- A 契丹系の武将
- B 女真系の武将
- C トルコ系の武将
- D ソグド系の武将

設問3 下線部[ウ]について、兩税法を献策した宰相の名前を答えなさい。

設問4 下線部[ウ]について、兩税法はその後の王朝にも受け継がれた。どの王朝まで引き継がれたか答えなさい。

設問5 下線部[エ]について、均田制という土地制度をはじめた国家を答えなさい。

設問6 空欄 aに入る語を答えなさい。

設問7 空欄 bに入る語を答えなさい。

設問8 下線部[オ]について、中国でこのようによばれた宗教を答えなさい。

設問9 下線部[カ]について、中国でこのようによばれた宗教を答えなさい。

設問10 下線部[キ]について、玄宗の治世期には、海上交易を管理する役所が広州に設置された。この役所の名称を答えなさい。

設問11 下線部[ク]の都市について、宋代におけるこの都市の名称を答えなさい。

設問12 下線部[ケ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問13 下線部[コ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問14 下線部[サ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問15 下線部[シ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

前317年頃マウリヤ朝を樹立したチャンドラグプタは、ガンジス川中流域の有力部族の出身であったらしい。彼は、政治的混乱状態にあったインダス川流域を征服し、インド史上初めてインダス川とガンジス川という二つの大河の流域にまたがる帝国の建設に成功した。また、前305年頃には、侵入してきた [c] の軍を破った。そのチャンドラグプタは晩年に出家して[ス] ジャイナ教の行者となり、南インドで理想的な断食死をとげたという。

第2代王ビンドゥサーラはデカン方面の征服事業を進め、第3代王のアショーカも初めは領土拡張政策を推進した。そして、デカン東北部の[セ] コーサラ国を征服したアショーカの治世期にマウリヤ朝の領域は最大となり、インド亜大陸の南端部を除くほぼ全インドがその版図に入った。

前2世紀にマウリヤ朝が衰退すると、ギリシア系やイラン系の人々が西北インドへの侵入を活発化させた。1世紀には、イラン系のクシャーン人が西北インドを征服し、クシャーナ朝を樹立した。[ソ] クシャーナ朝は北インドから中央アジアに及ぶ地域を支配し、東西交易で栄えた。 クシャーナ朝の王カニシカは[タ] 大乗仏教を手厚く保護し、[チ] この頃からガンダーラ美術とよばれる仏教美術が発展した。 このクシャーナ朝は、3世紀にササン朝ペルシアの圧迫を受けて衰亡した。

[ツ] 1世紀頃、インド洋の季節風を利用してアラビア半島からインド亜大陸沿岸に直航する航海法が開発され、海の東西交易が活性化した。 インド洋の海上交易ルートを通じて、大量のコショウがインドから地中海世界に輸出された。他方、地中海世界からは、ローマ金貨・ガラス・金銀細工などがインドにもたらされた。

こうしたインド洋交易の発展に対応して、南インドでも諸王国が建設された。[テ] 前1世紀頃デカン高原に成立したサーダヴァーハナ朝（アーンドラ朝）は、2世紀の末には、南インドの東西両海岸を統合して、インド洋交易で栄えた。また、[ト] インド亜大陸南端部では、チョーラ朝やパーンディヤ朝が海上交易を基礎として長く続き、ドラヴィダ系のタミル語の文化が栄えた。 一方、スリランカには、アーリヤ系のシンハラ人が渡来して、前5世紀頃にシンハラ王国を建設した。

[ナ] スリランカは、前3世紀頃に仏教を受容した。

設問16 空欄 [c] に入る語を、以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A アケメネス朝ペルシア
- B セレウコス朝シリア
- C パルティア
- D アレクサンドロス大王

設問17 下線部[ス]の宗教の説明として不適切なものを、以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 商人層に多数の信者を獲得した。
- B 不殺生主義を強調した。
- C シク教とほぼ同時代に成立した。
- D 開祖はヴァルダマーナである。

設問18 下線部[セ]について、正しければ○を解答欄に記しなさい。間違っていれば適当な語を解答欄に記しなさい。

設問19 下線部[ソ]について、東西交易で栄えたクシャーナ朝の首都を、以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A アグラ
- B デリー
- C パータリップトラ
- D プルシャプラ

設問20 下線部[タ]について、『中論』を著して大乗仏教の理論の確立に貢献した人物を、以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A ナガールジュナ
- B ナナク
- C ナーラーヤン
- D ナガラクルターガマ

設問21 下線部[チ]のガンダーラ美術の説明として不適切なものを、以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A ブッダの図像を初めて作成・定型化した点で画期的な仏教美術である。
- B インド・中央アジア・中国などの仏教美術に多大な影響を与えた。
- C アジャンター石窟寺院の壁画は、この仏教美術の代表的作品のひとつである。
- D 仏像の彫りの深い容貌や衣のひだの線などにヘレニズム美術の影響が認められる。

設問22 下線部[ツ]について、エジプト在住のギリシア人が紅海やインド洋の交易事情や航海に関する書物を1世紀の中頃に記している。この書物を以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 『アラビア海航海記』
- B 『東方諸国記』
- C 『東方案内記』
- D 『エリュトゥラー海案内記』

設問23 下線部[テ]の王朝は、北インドの文化に対してどのような反応を示したか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 北インドの文化を積極的に受容し、バラモン教・仏教・ジャイナ教が広まった。
- B 北インドの文化の受容には消極的であったが、仏教やジャイナ教が広まった。
- C 北インドの文化の受容には否定的で、バラモン教や仏教を弾圧した。
- D 北インドの文化の受容を拒否し、南インド独自の文化を保持した。

設問24 下線部[ト]の二つの王朝のうち、10～11世紀に最盛期を現出してスリランカ北部をも支配したのはどちらの王朝か。

設問25 下線部[ナ]について、スリランカに対する仏教の布教に影響を与えたといわれる支配者を答えなさい。

[ニ] 10世紀後半、ファーティマ朝はベルベル人やシチリア人などを軍隊に編入し、モロッコやエジプトへ遠征軍を派遣した。969年、シチリア出身の將軍ジャウハルは、[ヌ]アレクサンドリアを包囲し、同年7月には当時の首都であったフスタートに入城した。ジャウハルは、その969年にフスタートの北東で新都の建設を開始し、翌年にはアズハル=モスクの建設にも着手した。この新都が[ネ]カイロである。こうしてフスタートは政治的中心ではなくなった。だが、ナイル河畔の港市であったフスタートは経済的中心としての機能を果たし続けた。11世紀中頃にエジプトを訪れたあるペルシア人は、「カイロには2万軒の商店、800軒の賃貸家屋があり、フスタートの市場には、[ノ]ザンジバル産の象牙やアビシニア産の豹の毛皮が並んでいる」とその繁栄ぶりを描写している。

1168年、ザンギー朝に仕えていた[ハ]アイユーブ家のシールクーフと甥の[ヒ]サラディンは、ファーティマ朝カリフの援軍要請に応えるかたちでエジプトに出征した。この時、ワジールの位についたシールクーフが急死したため、結局ワジールとスルタンの称号は、サラディンに授与されることになった。

1169年にアイユーブ朝を樹立したサラディンは、1171年にエジプトの大カーディー（裁判官）を[フ]シア派から[ヘ]スンナ派に切り替えた。また、カイロのムカッタムの丘に城塞の建設を始め、この城塞は1207年に完成した。さらに、カイロとフスタートを取り囲む市壁の建設を試みたが、これは未完に終わった。

設問26 下線部[ニ]について、ファーティマ朝は北アフリカのどのあたりに樹立されたか。現在の国名で答えなさい。

設問27 下線部[ニ]について、ファーティマ朝と対抗関係にあった王朝のうち、コルドバに首都をおいた王朝を答えなさい。

設問28 下線部[ニ]のベルベル人について、彼らが11世紀中頃モロッコを中心に樹立した王朝を答えなさい。

設問29 下線部[ヌ]について、この都市に首都をおいた王朝を答えなさい。

設問30 下線部[ネ]について、第二次世界大戦中の1943年11月にはカイロ会談が開催された。カイロ会談に参加した3名の首脳のうち、アジア地域からの参加者を答えなさい。

設問31 下線部[ノ]について、ザンジバルの説明として適当なものを、以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A アフリカ東海岸の島の港市。10世紀にイスラーム商人が来航し、香辛料の産地やアラブ社会への奴隸の供給地として繁栄した。
- B アフリカ南海岸の島の港市。10世紀にイスラーム商人が進出し、香辛料や金の産地として繁栄した。
- C アフリカ北海岸の島の港市。香辛料の産地として、また地中海交易の中継港として繁栄した。
- D アフリカ西海岸の島の港市。9世紀にイスラーム商人が来航し、香辛料やカカオの集散地として繁栄した。

設問32 下線部[ハ]について、これはどのような民族出身の家系か。以下のA～Dの中から選択しなさい。

- A アルバニア人
- B モンゴル人
- C トルコ人
- D クルド人

設問33 下線部[ヒ]について、この人物の別名を以下のA～Dの中から選択しなさい。

- A サラーフ=アッディーン
- B サラーム=アッディーン
- C サラフィーヤ=ウッディーン
- D サラーフ=ウッディーン

設問34 下線部[フ]について、イラン系のシーア派王朝のうち、ファーティマ朝と同じ10世紀前半に樹立され、その後バグダードに進出した王朝を答えなさい。

設問35 下線部[ヘ]について、アイユーブ朝に続いてエジプトに樹立されたマムルーク朝も、やはりカイロに首都をおいたスンナ派王朝であった。この王朝の第5代スルタンになるバイバルスは進攻したモンゴル軍をシリア地方で撃破した。この時のモンゴル軍の統率者を答えなさい。

2 以下の問題文(04)～(05)を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

(04)

ローマは紀元前8世紀頃イタリア人の一派ラテン人がティベル河畔に建てた都市国家に始まり、はじめは王政が行われていた。その頃イタリア半島では、[ア]南部にはギリシア人、北部にはイタリア半島の先住民(イ)人がおり、地中海西部では(ウ)人が活躍していた。ローマも一時(イ)人の支配下に置かれたが、前6世紀の終わり頃(イ)人の王を追放し、1年任期の最高公職者に主導される共和政を敷いた。共和政は5世紀ほど続いたが、これを前期、中期、後期の三つの時期に分けることができる。

前期は前3世紀前半までの期間で、[エ]この間に国内では平民の貴族に対する闘争に一応の解決を与え、対外的には[オ]イタリア支配を確立した。中期はローマの支配がイタリアから地中海へと広がっていく時期である。その主軸をなすのはイタリアとはシチリア島を挟んで対岸にあったカルタゴとの三度にわたるポエニ戦争であったが、マケドニア、シリアなどとも戦い、戦場は北アフリカ、スペイン、ギリシア、小アジアなどに広がった。この間にローマは「帝国」へと発展し、著しい海外発展がローマ社会の内部に重大な問題を生むこととなった。

この重大問題を解決すべく改革を試みた前133年の護民官ティベリウス=グラックスが反対派に殺害され、ここに「内乱の一世纪」と呼ばれる動乱の時代、共和政後期が始まる。前123年からティベリウスの弟ガイウスが兄の遺志を果たそうとしたが、これもまた挫折した。グラックス兄弟の改革が失敗に終わった後、この重大問題に対処すべく(カ)が行ったとされる改革は、結果的に政治家(将軍)と兵士との間に私的な関係を生むことになった。政治家(将軍)たちが意のままにできる軍事力を持つと、政争は一気に軍事的衝突に発展することになった。将軍たちは内乱に勝ち残るための力を培わんとして、積極的に对外戦争を利用した。(キ)はセレウコス朝シリア王国を征服し、カエサルはガリアを征服した。(ク)が[ケ]パルティア王国に正当な理由もなく戦争をしかけて戦死したのも、このような理由からであった。この時期にローマは支配領域を著しく拡大したが、これはまさに国内の内乱状態が故であった。

内乱は他を圧する強力な将軍の出現によってのみ終結されうるのであり、その過程はとりもなおさず帝政成立の過程であった。最後の勝者となって内乱に終止符を打ったのがオクタヴィアヌスであり、彼は前27年元老院から[コ]アウグストゥスの称号を与えられ、ローマ帝国初代皇帝とされている。

設問1 下線部[ア]について、ギリシア人は前8世紀後半から約150年間の大植民活動の時期に地中海、黒海沿岸に多数の植民市を建設したが、その理由としてふさわしくないものを一つ選び記号で答えなさい。

- A 人口増加による土地不足
- B 中小土地所有者の貧困化
- C 政治的主導権をめぐる争いに敗れた不平貴族を送り出す
- D 母市の領土拡大
- E 商業上の関心から取引の場を設置するため

設問2 (イ)に当てはまる語を答えなさい。

設問3 (ウ)に当てはまる語を答えなさい。

設問4 下線部[エ]について、この間に形成された支配層を何と呼ぶのか下記の中から選んで記号で答えなさい。

- A プレブス
- B コンスル
- C パトリキ
- D ディクタトル
- E ノビレス
- F オプティマテス
- G ポプラレス
- H エクイテス

設問5 下線部[オ]について、最後まで抵抗したのは南部のギリシア人植民市であったが、その都市名を答えなさい。

設問6 (カ)に当てはまる人名を答えなさい。

設問7 (キ)に当てはまる人名を答えなさい。

設問8 (ク)に当てはまる人名を答えなさい。

設問9 下線部[ケ]について、下記の中から誤っている記述を一つ選び記号で答えなさい。

- A 前3世紀なかばにセレウコス朝から独立したiran系の王国。
- B 前2世紀、セレウコス朝勢力を排除してメソポタミアを支配する強国となった。
- C セレウコス朝滅亡後はローマと対立した。
- D 東西交易で繁栄し、中国と国交を持った。
- E 初期にはペルシア文化を吸収したが、次第にヘレニズム文化の復興をはかるようになった。
- F 3世紀にササン朝に敗れ、滅亡した。

設問10 下線部[コ]について、この意味を答えなさい。

[サ] 絶対王政の時代になって今日のような近代的な意味での国家の原型が形成され、それぞれの絶対主義国家が発展していく過程には、[シ] 国内体制の整備と並んで、数多くの戦争が行われた。これらの戦争は国家の利益をめざしたヨーロッパにおける領土獲得戦争と、ヨーロッパの外での植民地獲得戦争があり、この両者は結びついて現れた。さらにこれらの戦争が敵対する二国だけで戦われるのではなく、両方の側に同盟国が加わって多数国間で戦われるようになった。この時期になって、諸国家が自国の独立と繁栄を維持するためには、ある一国が強大になることを阻止し、勢力の均衡によって自国の国家利益を守ることが必要となり、そのための国際関係が形成されるようになってきたためである。

ヨーロッパで近代的な国際関係が形成されたのはイタリア戦争の時期であった。これは[ス] フランス王がナポリ王位継承権を主張してイタリア半島に軍を送ったのが原因であるが、半島での勢力均衡が壊れることを恐れた諸勢力が同盟を結んで対抗し、[セ] オーストリア・スペインのハプスブルク家とフランスのヴァロワ家・ブルボン家という18世紀まで続く対立の基本線ができるがった。この対立は[ソ] 神聖ローマ帝国皇帝位をカルロス1世と [タ] フランソワ1世が争ったことによりイタリア半島から全ヨーロッパに拡大した。その間、宗教改革の進展がこの対立に影響を与えたが、[チ] フランスは東西両ハプスブルク勢力にはさまれてイタリア半島から締め出される結果となった。ここにハプスブルク家の優位は決定的となり、ことに[ツ] スペインは新大陸貿易をおさえて超ヨーロッパ的な強大国として目覚ましい発展をとげた。そこで16世紀後半の国際関係はスペインに対抗する反ハプスブルク勢力という形で展開し、この対抗関係が大陸での宗教戦争のなかにもつらぬいていた。そのなかからオランダは独立することとなり、イギリスはそれを援助したばかりでなく、[テ] スペインの無敵艦隊を破り、国際関係におけるスペイン優位の体制に打撃を与えた。

スペインに対するイギリスの勝利は、ただちにイギリスの絶対的優位をもたらしたわけではない。17世紀前半においては、[ト] 新旧両派の宗教的対立として開始された三十年戦争が、ハプスブルク家への対抗という前世紀の国際関係をそのまま受け継いで、国際的規模での政治的争いとして展開している。この戦争の結果結ばれた[ナ] ウェストファリア条約は、明らかにヨーロッパにおける国際関係の勢力配置が大きく変わったことを示した。スペイン・オーストリアの両ハプスブルク勢力の著しい後退と、それにかわるフランス・[ニ] スウェーデン・プロイセンの台頭である。そのなかのひとつフランスを中心として17世紀後半の国際関係は展開されることとなる。

ウェストファリア条約体制を揺るがしたのはルイ14世の侵略戦争であった。[ヌ] 彼は「自然国境説」を唱えて度重なる侵略戦争を行った。ヨーロッパの勢力均衡を破るという意味でヨーロッパの国際関係に重大な影響を与えると考えられたのはスペイン継承戦争であった。フランスがスペイン王位を得ればヨーロッパの勢力均衡が壊されるばかりでなく、フランスはスペインの海外領土を手に入れて絶対的優位な存在となってしまうため、ルイ14世の企てを防ごうとした。スペイン継承戦争の結果結ばれた[ネ] ユトレヒト条約に見られるフランスと反フランス諸国との対抗が18世紀のヨーロッパの国際関係の基軸となった。

17世紀の国際関係で注目すべきことは、ヨーロッパの国際関係が地球規模に拡大し、ヨーロッパ大陸での諸国の争いが海外植民地争奪戦へとひろがったことである。1588年の無敵艦隊の大敗によって制海権を奪われたスペインにかわって世界貿易の主導権を握ったのは、独立したばかりのオランダであった。オランダは積極的にインド洋から東南アジアの植民地・市場の獲得に乗り

出し、[ノ] バタヴィアを根拠地として貿易活動を行い、北アメリカにおいてもオランダ領植民地の中心となる[ハ] ニューアムステルダムを建設した。このオランダの世界貿易における霸権に挑戦したのがイギリスである。[ヒ] 17世紀初頭以来アジアと北アメリカに植民活動を展開したイギリスは、[フ] ピューリタン革命による内乱に乗じて海上貿易を独占しようとしたオランダに対して[ヘ] 航海法を発布してオランダを刺激したため、3回にわたるイギリス＝オランダ戦争がくりひろげられた。 この戦争の結果オランダは敗退した。

18世紀におけるヨーロッパの国際関係の出発点となったのはユトレヒト条約であったが、この世紀になると[ホ] 新興国ロシアとプロイセンも加わり諸国間の利害関係はさらに複雑になるなか、オーストリア継承戦争、七年戦争が行われた。イギリスは七年戦争を[マ] フリードリヒ2世にまかせて、[ミ] 北米の戦いに力を入れ、フランスとの植民地戦争に決着をつけた。[ム] インドでもクライヴの活躍によりフランス勢力を圧倒した。七年戦争の結果結ばれた[メ] パリ条約は、ヨーロッパにおけるプロイセンの台頭とイギリスの植民地帝国を決定づけるものであった。

設問11 下線部[サ]について、これを正当化する主張を何と呼ぶのか答えなさい。

設問12 下線部[シ]について、絶対王政の実質的支柱として整備されたものは何か。二つ答えなさい。

設問13 下線部[ス]について、それまでナポリ王国を治めていた家系を下記から選び記号で答えなさい。

- A シュタウフェン家
- B アンジュー家
- C アラゴン家
- D サヴォイア家
- E メディチ家
- F スフォルツァ家

設問14 下線部[セ]について、何年まで続いたのか答えなさい。

設問15 下線部[ソ]について、下記から正しい記述を一つ選び記号で答えなさい。

- A ザクセン朝第2代の王オットー1世が教皇レオ3世から皇帝の帝冠を受けて始まった。
- B 皇帝ハインリヒ4世は聖職叙任権をめぐって教皇グレゴリウス7世に罷免されたが、「カノッサの屈辱」で許された。
- C 皇帝ハインリヒ5世と教皇ウルバヌス2世とのあいだで結ばれた協約により叙任権闘争は終結した。
- D 皇帝カール4世は「大空位時代」を終わらせるために金印勅書を発布し、「教皇のバビロン捕囚」の終結にも尽力した。
- E ウエストファリア条約で諸邦がほぼ完全な主権を獲得した結果、帝国は35の領邦国家と4自由市に分裂し、帝国は名目だけの存在となった。
- F ナポレオン保護下にライン同盟が結成され帝国を離脱すると、フランツ2世が帝位を退き、帝国は消滅した。

設問16 下線部[タ]について、彼が同盟を結んだオスマン帝国のスルタン名を答えなさい。

設問17 下線部[チ]について、イタリア戦争の講和条約名を答えなさい。

設問18 下線部[ツ]について、この貿易で16世紀後半から主に使われた船を下記から選び記号で答えなさい。

- A ジャンク船
- B カラック船
- C ダウ船
- D 三段櫂船
- E ガレオン船
- F 蒸気船

設問19 下線部[テ]について、無敵艦隊がイギリスに向けて出航した港名を下記から選び記号で答えなさい。

- A バルセロナ
- B バレンシア
- C カルタヘナ
- D リスボン
- E カディス
- F ジブラルタル

設問20 下線部[ト]について、この原因となる反乱を起こした地方をハプスブルク家が手に入れることになった出来事を下記から選び記号で答えなさい。

- A ワールシュタットの戦い
- B コソヴォの戦い
- C ニコポリスの戦い
- D アンカラの戦い
- E モハーチの戦い

設問21 下線部[ナ]について、下記の記述の中から誤っているものを一つ選び記号で答えなさい。

- A フランスはアルザスとロレーヌの一部を獲得した。
- B 神聖ローマ帝国では、諸邦がほぼ完全な主権を認められ、帝国の分裂状態は決定的となった。
- C スウェーデンは西ポンメルンを獲得してバルト海の制海権を得た。
- D アウクスブルクの和議を確認し、カルヴァン派にも個人の信仰の自由を認めた。
- E スイスとオランダの独立が国際的に承認された。

設問22 下線部[ニ]について、スウェーデンは1397年から1523年まである国に従属していた。その国を答えなさい。

設問23 下線部[ヌ]について、これに当てはまらない戦争を下記から一つ選び記号で答えなさい。

- A ポーランド継承戦争
- B アウクスブルク同盟戦争
- C 南ネーデルラント継承戦争
- D オランダ戦争
- E ファルツ継承戦争

設問24 下線部[ネ]について、これによりイギリスはスペインから獲得したが後に返還することになった場所を答えなさい。

設問25 下線部[ネ]について、これによってイギリスはスペイン領アメリカに対する奴隸供給請負契約を手にしたが、これは何と呼ばれるのか。下記から選び記号で答えなさい。

- A アシエンダ
- B インムニテート
- C エンコミエンダ
- D アシエント
- E ディーワーニー

設問26 下線部[ノ]について、現在名を答えなさい。

設問27 下線部[ハ]について、この都市はヨーク公に占領されてイギリス領となり、ニューヨークと改名されたが、このヨーク公にあたる人物を下記から選び記号で答えなさい。

- A クロムウェル
- B ジェームズ1世
- C ジェームズ2世
- D ウィリアム3世
- E チャールズ1世
- F チャールズ2世

設問28 下線部[ヒ]について、アジアにおいてイギリスをインド進出に専念させることになった出来事を答えなさい。

設問29 下線部[フ]について、この発端となった出来事を答えなさい。

設問30 下線部[ヘ]について、この背景にあった考え方を何と呼ぶのか答えなさい。

設問31 下線部[ホ]について、ロシアを台頭させた出来事を答えなさい。

設問32 下線部[マ]について、下記から正しい記述を一つ選び記号で答えなさい。

- A ベルリン郊外のポツダムにバロック様式のサンスーシ宮殿を造営した。
- B 若い頃はフランス文化にあこがれ、文学・哲学に興味をもって、ホップスに師事した。
- C 「朕は国家なり」と称し、王領地の農民保護、産業振興を行い啓蒙專制君主のひとりに数えられる。
- D オーストリア継承戦争・七年戦争でシュレスヴィヒを獲得し国力を伸ばした。
- E 彼が主唱して第一回ポーランド分割を行った。

設問33 下線部[ミ]について、何と呼ばれるのか答えなさい。

設問34 下線部[ム]について、その後フランスが勢力を向けることとなった地域を答えなさい。

設問35 下線部[メ]について、パリ条約と呼ばれる講和条約はほかにもいくつかあるが、ナポレオン戦争と第二次世界大戦関連以外の戦争名を二つ答えなさい。